

集合型 TEKU-TEKU2023◆赤羽駅西口を歩く(+まちとくらしのミュージアム)(活動記録+評価結果)

日時■2023年11月5日(日)13:20~17:00 頃(赤羽駅北改札口集合)

コース■JR赤羽駅北改札口集合~★赤羽駅西口地区再開発(第Ⅰ期パロト 1、第Ⅱ期パロト 2・3)~
★UR まちとくらしのミュージアム[スターハウス 42~44(星形保存住棟)、ラボ41(板状保存住棟)、ワークショップ広場~★ミュージアム棟]~★ヌーヴェル赤羽台(★=評価対象)

参加者■大竹 亮、小川美由紀、栗原 徹、高橋 謙、原 久子、○藤井正男、藤井幹也、古里 実、溝辺正浩、村松紀明、村田英樹、野中るみ子、山根純一、山根友子、横田宜明(以上15名、○コーディネーター)

企画主旨■赤羽駅西口駅前地区は、戦災を免れ未整備のまま木造住宅が密集するエリアでしたが、昭和30年(1955)代から整備を求める声が高まり、公団施行の市街地再開発事業として昭和60年(1985)に第Ⅰ期(パロト 1)、平成7年(1995)に第Ⅱ・Ⅲ期(パロト 2・3)が竣工しました。

戦前日本陸軍の被服本廠だった赤羽台には、日本住宅公団が昭和37年(1962)に当時23区では最大規模の総戸数3733戸の大団地を建設しました。赤羽台団地は、当時都市居住の新しいモデルとして、先進的な住棟の配置(囲み配置、スターハウスなど)や多種類の間取りが導入されました。そして平成31年(2019)にスターハウスを含む4棟が、団地として初めて国の登録有形文化財(建造物)に登録されました。この街区に今年9月、新たにURまちとくらしのミュージアムが開館し、八王子にあった集合住宅歴史館を移転、団地以外の展示も行うミュージアム棟が開館しました。

赤羽台団地は、老朽化が進んだため平成12年(2000)に建替事業に着手し、ヌーヴェル赤羽台として今最後の街区の建設が進んでいるところです。

赤羽駅西口のこれらの整備地区を訪れ、まちの変容と歴史や記憶の継承について考えます。

1■赤羽駅西口地区再開発(第Ⅰ期パロト 1、第Ⅱ期パロト 2・3)

評価3.57 AAAABBBBBBBBBBBB-

評価A◆かつての赤羽駅西口は、赤羽線の終着ホームに小さな改札口があって、駅前には商店や住宅が密集する庶民の街だった。駅前広場は無く、バスは少し離れた線路沿いの暗い崖下の歩道もない狭い道に乗り場がいくつも続いていた。その当時から見ると、再開発できちんと整備された現在の駅前は見違えるようだ。団地を含む周辺住民の基本的な生活利便性は大きく向上したことだろう。権利者調整もさぞ苦労が多かっただろうが、さすがは公団(U R)事業の成果である。商業施設は、通路の狭さや天井の低さ、デッキの階段などが今となっては少し古めかしく感じるが、それが親密感をもたらすとともにテナントの入れ替わりもあり、この街になじんだ施設として定着しているように見える。

評価A◆赤羽駅の西側に行ったのは今回が初めてで、駅広と再開発が行われていることを知らなかった。密集した市街地で権利調整が難しいところ。地権者の継続意向を反映したループ館地下飲食店街、町の賑わいをもたらすパルロード 1 と 3 の道路に面した小店舗の設置など工夫がみられる。七福神をモチーフにしたストリートファアーニチュアーも楽しい。

評価A◆順を追った見学ルートと説明で再開発時の設計者の工夫や思考がよく分かりました。点在していた彫刻や、店舗の配置など興味深かったです。

評価A◆色々工夫が凝らされていて良いと思いました。

評価B◆再開発時の工夫があちらこちらで散見されました。解説頂いたことでより多様な視点から見学出来たように思います。

評価B◆20年以上前に完成した再開発ビルなので、最近の商業ビルと比べるとやや見劣りはするが、それなりに賑わっている。

評価B◆通り抜け空間の開放性、透明性など、もう少し地域とのつながりがあるとよかった。隣棟のつながりもプロムナード感、つながったところにベンチのあるポケットパーク的のコーナーなど機能だけではなくプラスアルファの豊かさがあるとよかった(前時代的な再開発)

評価B◆最初は昭和の時代の典型的再開発と思ったが、アートを組み込んだり、通りに面した沿道型の店舗を配したり、アートプロジェクトなどいろいろな工夫があることが分かった。しかしながら、つくり方や店舗配置など、やはり時代を感じてしまう。

評価B◆30年以上前から始まったこの再開発ですが、密集市街地が無くなり不燃の街に変わっています。商業ビルとしては陳腐化が進んでいて間もなく手を入れていく時期が来るのでしょうか、それはそれで大変です。

評価B◆駅前の三つの街区の商業施設を上手につないだ再開発だと思う。しかし赤羽駅前の立地であっても上層に住宅を載せざるを得ないのは残念。

評価B◆従来の地権者も営業を続けられている点で、成功した再開発であることがわかる。一度歩いただけではわかりにくいですが、3つのビルの高低差はもとの地形によるものか。一体的でありながらそれぞれの特徴が見えるようで面白い。

評価B◆棟と棟とを繋ぐ幹線道路を跨ぐ歩道橋などとの段差にスロープがなく、エスカレーターやエレベーターも目立たず、バリアフリーの観点が全く見えませんでした。残念です。有効な駅前広場とアプローチ道路を確保したことは、再開発としては当然かもしれませんが、それなりの大きな意義がありました。建物の現況としては、ヨーカドーが店内の活気がなかったのが気になりました。

た。グループ全体、小売業全体の現実なのでしょう。先行きが心配です。撤退もありうるかも。市街地再開発事業としては、古典的と言ってもよい成功事例だと思います。赤羽駅の鉄道の連続立体交差事業による、東西の自由通路の整備とあいまって、駅と駅前を完全に一新した、大事業であったと思います。欲を言えば高層部の住宅の現況を見てみたかったですね。

評価 B ◆都市局再開発事業を担当していたころ、代表的な事例として赤羽駅西口地区を紹介していたので、印象に残っています。H7年竣工後、約30年近くが経過しましたが、JRの駅前だけあって賑わいはありました。しかし、テナントのリニューアルなどは必要になっているように思います。

評価 B ◆駅から階段を使わず、まっすぐに歩いてアプローチできるのが良い。人出も多く賑わっているのがうれしい。



2 ■UR まちとくらしのミュージアム(スターハウス 42~44、ラボ41、ワークショップ広場等)

評価4.60 AAAAAAAAAAAAAABBB

評価 A ◆大規模団地の建替えに当たって、公団初期の中層板状住棟や貴重なスターハウスを一部保存し、部分公開しているのは素晴らしい。それも団地の建つ丘の南端で見晴らしが良く、丘の下や遠くからも目立つ象徴的な場所である。ミュージアムと合わせて、公園状の広場を囲んでいる配置もいい。スターハウス内部は最上階を全面改装中だったが、当初の住戸内部も見学できるようになるとより興味深いと思う。

評価 A ◆当初の緑の多い居住環境をそのままに残し、既存ストックを活用する実験を試みていて楽しい。

評価 A ◆スターハウスと板状住棟を保存できたのはとても良かった。新築のミュージアム棟も含めていい雰囲気空間になっている。

評価 A ◆保存された意義は大きく素晴らしい。今回はスターハウスがスケルトン状態であったので、暮らしの様子がわからず残念でした。周辺に歴史を感じる大きな樹木が残されていること、歴史感と思いのあるデザインベンチ配置など、とても良い雰囲気に作られていました。

評価 A ◆3つのスターハウス、板状住棟、ミュージアム棟で構成された、新旧が混ざり合った空間であるが、それぞれがその時代のシンプルで洗練されたデザインであるが故に、囲われた空間が洗練され、心地の良い場所となっている。さらに流氏のベンチアートがポイントを与え、空間を引き締めている。

評価 A ◆建て替え団地で往時の姿をきちんと目的をもって保存している所は他にない。細部においても当初の姿がよく保存されている。他団地から持ってきたストリートファニチャもなじんでいる。

評価 A ◆なによりまず、スターハウス棟が保存されたこと、その現実を見られたことが感激でした。(スターハウスが現役で生きている松戸の常盤平団地を思い出しました。) 午前中、団地自治会の方々が主催して下さった「団地ガイドツアー」に参加できて、建て替え以前からお住まいだったという居住者の方のお話を現地で伺うことができました。お一人は、スターハウスの5階にお住まいだったとのことです。スケルトンになったスターハウスの住戸は痛々しい躯体で、抜本的な耐震補強抜きには活用できないということが納得できました。スターハウス棟のインパクトのためか、ラボ41(板状保存住棟)の印象が薄くなってしまいました。街区全体としては、豊かな樹木のおかげもあって、穏やかな広がりのあるスペースを構成できていて、よい景観を残していました。

評価 A ◆板状保存棟とスターハウス、前川住宅の階段、ワークショップひろばの流氏のオブジェは、プレートを立てて説明があるとよいと思います。(設置されてどこかにあったか、これからの設置がもしもせうが) スターハウスは、居室部分に入らなかったのは残念でしたが、保存住棟になって良かったです。

評価 A ◆広々とした芝生の庭にゆったりと住戸が配置されている保存住棟エリアはのんびりできる。また隣の広場はキッチンカーも入れるスペースがあって多目的に使えるのが良い。

評価 A ◆スターハウスの居住時の保存が見たかったけれど、板状保存棟の方の展示内容に画像による記録が見れて良かったです。バーチャルな体験でも記録が残されるのは貴重です。スターハウスに住んでみたい、泊まってみたい、どんなだったのかな?と楽しめました。都内には最後の住めるスターハウス、野方住宅がありますが、どこか一カ所でも居住時のまま保存してほしいなと思います。野方住宅も見に行ったらありますが、きれいにリノベーションされて超人気物件の様子。

評価 A ◆樺の大木などの元々の緑地環境と複数棟の建物をまとめて残した意義は、大きいのではないのでしょうか。今後注目したいと思います。

評価 A ◆とても良かったです。懐かしかったです。

評価 B ◆景観のアクセントとなっているスターハウスが保存・活用されるのは、素晴らしいことだと思います。

います。1層3戸を2戸にして、隣戸とのプライバシー問題も解消され、3面に開放された間取りにするのはいいアイデアだと思いました。改装されたら内覧会に参加したいですね。ワークシ
ョップ広場も適度に囲まれたいい空間になっていると思います。

評価B ◆スターハウスが保存される事が決まり良かったと思うが、今後の活用方法がまだ決ま
っていない様なので今後に期待したい。URの施
設とニューベルの境界をもう少し明確にし、
外部からの UR 施設来訪者の居心地が良い雰
囲気が欲しいと思った。

評価B ◆旧団地の一部の既存棟を残しながらミュ
ージウムとするコンセプトが良い。オープンス
ペースに彫刻の椅子が上手に置かれていて好
印象だった。ただし、スターハウスの内部展
示が無いのが残念である。八王子にあった集
合住宅歴史館の機能が赤羽へ移されて、こ
うした形になったのは学生など若い人たちも集
合住宅の歴史を学びやすくなったと思う。



3 ■ミュージアム棟

評価5.00 AAAAAAAAAAAAAAAAAA

評価A ◆ガラス張りの開放性のあるデザインでよい。同潤会などの歴史、実寸の晴海アパートなど充実
した展示でとても良かったです。日本の場合、一般の人は集住のポジティブな面が理解されてい
ないことが多いと思うので。都市に住むこと＝集まって住むことの歴史や文化を伝える ～集ま
って住むこと～「集住・文化博物館」としてさらに発展した施設になりますよう。

評価A ◆URまちとくらしのミュージアムは、私たちの生活の変遷を同潤会アパート、蓮根団地、晴海
高層アパート、多摩平団地テラスハウスを実物に接して見られる貴重な博物館である。UR シアタ
ーやメディアウォール等はビジュアルでわかりやすく、計画的なまちづくりと生活の豊かさの変
遷を知る優れた施設である。

評価A ◆木造とRC造の混構造で特徴のあるデザインであるとともに、コンパクトながら必要な機能を
うまく詰め込んでいた。既存住棟とのスケールもマッチしていて、街区全体の構成もきちんと考
慮されている。

評価A ◆有形登録文化財の既存棟に面する部分に大きなガラス窓をとり、晴海高層アパートなどの展示
を外部からもうかがえるようにしているところが良い。木調の外壁デザインは、周りの既存棟が
全てRCなのでミュージアム全体のアクセントになっている。

評価A ◆建物のデザイン、展示物ともにURの力の入ったすばらしい展示場になっていると思います。
研究者や団地マニアには、たまらない展示なのではないでしょうか。復元住戸は、同潤会のアパ
ートメントの内装、調度品がレトロで印象に残りました。

評価A ◆木材を用いた外壁は、団地の住棟と調和しないようにも感じたが、標本箱と聞いて納得した。
住棟側は無窓壁面でプライバシーを守り、スターハウス側に開口部を設けて、見晴らしがいい。
内部展示は、公団～URの事業全般と、集合住宅団地の計画や技術の歩みと成果を十二分に実感
できるものだ。特に同潤会アパートや晴海公団・蓮根公団の住戸内部の再現は貴重なもの。当日
は専門家や職員（内容に自負と愛着を持つ）による熱心な解説もあって、より理解が深まった。

評価A ◆八王子にも見に行ったことがあります。同潤会、晴海高層アパートテラスハウスなど の復元
が素晴らしかった！このような行きやすい場所に移されたことで多くの人に見て もらえるよう
になったと思います。子供時代江東区に居住していたので同潤会住宅は身 近な存在でした。下町
の和風木造住宅の中で洋風な感じがあがれでした。代官山や青 山も虎ノ門も江戸川橋も日暮
里、東上野、三河島、も現役だった時代。全て見に行き 写真を撮ったけれど何もなくなってし
まいました。壁の臭いや扉の重さ…記憶に残るの み。こうした保存は貴重です。今後の新築住宅
でもうあのようなレリーフ等は見られな いでありましょう。晴海高層アパートの現役時代は知
らないのですが、どの様な構造だ ったのか知りたかったので見応えありました。復元住戸や展示
されたパーツなど当時の 創意工夫や新しい物を作ろうという気概が感じられてわくわくします
ね！

評価A ◆同潤会住宅や晴海アパートをはじめ、これだけの史料を復元・保存されていることに感激しま
した。百聞は一見にしかず。手に触れるドアノブが、歴史を語っていました。URの自負を感じ
ます。瀬戸物の電気の遮断機（ブレーカー）が、私自身が父の社宅暮らしをしていた、ついこの
間の生活の記憶の実体験のようでした。

評価A ◆同潤会や晴海高層アパートなどが実物を使って再現されるなど、非常に興味深い展示内容。通
常の予約制の見学では、説明員による非常に丁寧な説明がなされており、「これを無料でやってよ
いのか！」と思った。

評価A ◆非常に充実した内容。復元住戸は家具や電化製品も凝っていて面白い。個人的には同じ縮尺で
並べた代表的な団地の配置図が秀逸。

評価A◆軍艦島、同潤会アパートから現代に至る集合住宅の歴史がとても良く判る展示がなされていて素晴らしいミュージアムでした。後日ゆっくりと再訪問したいと思った。

評価A◆アクセス便利な場所に移転してよかったです。集合住宅の歴史を学べる場として貴重な存在になると思います。復元住戸の同潤会アパートや前川住宅は、今見ても素敵です。昔々、teku-tekuで前川住宅の外廊下の先に夕日を見たなあ、とひとり思い出にひたりました。前川住宅の長い外廊下の写真があればパネルにし壁に貼ってはいかがでしょう。

評価A◆八王子の集合住宅歴史館に比べて格段にアクセスし易くなりました。展示の質・ボリュームから、90分の見学時間は足りないように思います。そのうち、時間制限枠が外されることを期待します。是非、カタログを作ってくださいですね。

評価A◆以前八王子の展示場も訪問したが、展示方法もリニューアルされていて見飽きることがなかった。複数団地の同スケール配置模型は解説してくださったおかげで興味深かった。

評価A◆団地の歴史を感じました。



4 ■ニューヴェル赤羽台の団地計画

評価4.20 AAAAAAAAAABBBBBB

評価A◆公団住宅初期の代表的団地である赤羽台団地の建替えに当たり、当時のモダニズムの精華ともいえる計画論を尊重・継承し、直行軸による配置・住棟計画を徹底していることが素晴らしい。その結果、ストリート性の高い都市的な空間構成が実現した。本来は従前の直線状の団地内商店街を再生してほしかったが、整備敷地への（民間分譲マンションではなく）大学の誘致や、スターハウス保存とミュージアムの整備など、画期的な現代の記念碑的団地に再生している。

評価A◆囲み型の住棟配置を主体とした団地計画は、全体として良くまとまっている。高台に立地しており下の街との関係が希薄なので、アクセスが改善されると良いと思う。

評価A◆建替え前の大まかな街区割と軸線を踏襲しつつ、住棟の並行配置から囲み配置に返還することで、なじみやすい雰囲気と高容積の新しい景観を同居させている。

評価A◆建替え前の街区構成、配置計画を踏襲しながら囲み型配置で新しい解釈を与えている。通りに面した足元空間、街区をつなぐ通り抜け、中庭、遠景としての構成など、無駄なく緻密に構成されている。オープンスペースも意図したコミュニティ形成に寄与している。

評価A◆空地も多く圧迫感がない。コの字配置、通りに面した住戸プラン、パーキング配慮、個々の棟での変化などいろいろな配慮がなされていてよい

評価A◆団地というより都心に近いおしゃれな集合住宅群。駅から近いし、緑も多くて優良管理会社のURの元、長く快適に住むことができそうでとても魅力的です。個人的に今まで見た現役のUR住宅の中で一番、住んでみたいと感じました。

評価A◆おそらく民間では真似できない大胆なデザインや色使い、住戸配置が楽しめた。住んで いる方にとってはどうなんだろう？とも感じたが。

評価A◆またまた新しい暮らしの提案、配当計画とデザインに目を見張りました。

評価A◆良かったです。

評価B◆囲み型の住棟配置を基本として、街区毎に様々なデザインを取り入れるやり方は、幕張ベイタウンと同様の方法だと思いますが、メタリックな外観と相まってより近未来的な都市空間になっていると思います。住棟の中庭空間を貫く歩行者ネットワークは、人々を誘導する効果があり、効果的だと思います。

評価B◆画一化しがちな大規模集合住宅において、街区ごとに設計者を変えたのは良かった。結果、街区ごとに見え方の違いがハッキリ出ていた。

評価B◆囲み型配置の住棟デザインが単調とならないよう、バルコニーや廊下に使われるテキスチャーに変化をつけるなど設計上の工夫がそこそこ見られた。団地自治会の「年金で暮らせる家賃制度を」という旗がいたるところに掲げられていたが、建替えの従前居住者にとって切実な声なのだろうと思う。住む続けられる仕組みも大切。

評価B◆巨大な住宅団地を住棟ごとにファサードに特徴を持たせ、緑が多く街区の外周に住棟、街



区内に駐車場上部を活用した広場を持ってきて、圧迫感がない。
評価B◆住戸の専有面積が60㎡で、月額家賃が20万円。重たい現実です。むむむ。
評価B◆入居倍率がそれなりに高いことが頷けました。

5 ■ヌーヴェル赤羽台団地の公共空間（広場、通路等） 評価4.46 AAAAAAAAAAABBBB

評価A◆直行軸による配置・住棟計画により、住棟間に広い直線状スペースが生じて、そこに歩行者道や緑地、集会スペース、街角広場などが設けられ、豊かなストリート空間に仕上がっている。また住棟に囲まれた広い中庭が生じて、半ば開放されて公園状に上手く活かされていた。各住棟のエントランスと外部空間との関係も、中間領域が自然な感じで非常に良い。当日はイベント（ボンボンフェスタ）が開催されていたが、これらのスペース（特に歩行者道や街角広場）が有効活用されて、極めて生き生きとした空間になっていた。

評価A◆長大な住棟が生み出す硬くなりがちな景観を、歩行者の目の高さで単調さを破るまさに風穴を開けたようなもの。隙間を通して広場に出た時に開放感がある。

評価A◆イチヨウ並木通りと中庭空間が連続してイベント広場を構成し、大階段は観客席になるよう意図されているが、今回のお祭りを見て、みごとに機能していた。小さなコミュニティ空間がいたる所に用意されており、人の繋がりを大事にした心地よい空間となっている。

評価A◆以前の緑地を残したというB街区の花木園周辺の通路や、既存の並木道を整備した「イチヨウ通り」と階段を設えたコミュニティの核など、好印象でした。

評価A◆広場、通路がイベントに活用され、若い世代の楽しそうな暮らしが垣間見られた。今後も魅力的な場であるためのソフトを考えマネジメントをする人的資源や住民の意識づくりが必要と思った。空間がいたる所に用意されており、人の繋がりを大事にした心地よい空間となっている。

評価A◆直角・並行配置のコンセプトが維持できたのは賃貸住宅だったからですね。重要な要素として、住宅の所有関係が後々まで残ることを実感しました。各住棟の設計者の皆さんは、それぞれに工夫を凝らしておられましたが、全体としてのフレームに納まっていることがなにより美しかったと思います。トンネルの下からエレベーターで上下してみました。自転車の利用者がエレベーターを活用していることを知りました。それと、オープンスペースの構成計画の要素として、従前の樹木を極力残してくださったことに感謝しています。歴史豊かな緑は、再現不可能な景観資源です。素敵でした。

評価A◆囲み型住棟配置にもかかわらず、通り抜けの路地空間と広場が上手に繋がれていると思う。

評価A◆出店の並んでいた通りや地下トンネル上の緑道はにぎわいの通りとなり、住棟の中庭をつなぐ歩行者道とネットワーク化されて楽しい空間になっていると思います。

評価A◆植栽がきれいに管理されていて、広場、通路でのイベントも楽しく感じました。訪れた時に居住者の高齢者の方々がベンチでお茶を飲んでいて、自分の家に庭がなくても、共用の庭でくつろげることは、羨ましく思いました。

評価A◆各住棟を閉じた空間にしない動線計画、住棟エントランスの抜け感や照明の使い方で良かった。

評価A◆棟内の光の通路が美しい。古い住宅のパーツが共有部に配置されて新旧の記憶を継承していて良いと思いました。景観が素晴らしい。

評価B◆当日が催事中だったせいかもしれないが、公共空間を住民が楽しく使っている様子が判った。通路や広場が広々していて人の集うスペースとして十分な様子。

評価B◆巨大な住宅団地だが、住棟をつなぐ通路が広場やコミュニティー施設を結んでいる。

評価B◆囲み配置の中庭や建物を通り抜ける通路など多様な公共空間が連続しているのは非常に面白いが、もう少し豊かな緑空間があると良かった。

評価B◆良かったです。



6 ■今回歩いた赤羽駅西口の街全体について 評価3.80 AAAAAABBBBBBBBBB

評価A◆ちょっとクセのある東口側と比べておとなしい印象だったが、高低差や軸線を残して整備された姿は、なじみのある住みやすそうな町だった。

評価A◆駅前再開発、団地、大学、既成市街地は、スケールの的にもデザイン的にもバラバラであるが、再開発や団地は周囲との繋がりを連続性に配慮していて、異物感は抑制されている。それぞれの時代の積み重ねで出来上がっていると思うと感慨深い。

評価A◆賑やかで何でも揃いそうな駅周辺と急な坂の上の整然とした団地のギャップが面白かった。

住みやすそうな街だと感じた。

評価A◆赤羽に行ったのは初めてだったのですが、赤羽台方面と駅反対側の飲み屋街のコントラストが面白い。今回は参加できませんでしたが赤羽の飲み屋街面白そうでした！奥深い！

評価A◆賑わいもありよい感じでした。

評価A◆良かったです。

評価B◆駅前再開発事業地区と建替えられたヌーヴェル赤羽台は非常に良いが、その間は雑然としていて、南側の旧日光御成道の拡幅（密集事業）で街が妙にのっぺりとし、西側は街路拡幅工事中で今は殺伐としている。元々の街路沿いは商店街で（日光御成道には数軒の職人町家も見られた）、その背後の丘の上に住宅地（かつての「赤羽モンマルトル」）という構図なので、沿道の商店が高層住宅に建て替えられていくと、メリハリのない新開地のような街になる恐れがあり、心配である。一方で東口はとても賑やかな商業地・飲食店街になっているが、再開発計画が進んでも、現在の超庶民的な活気を保ってほしいものだ。

評価B◆高低差のある地形をうまく利用している。幹線道路の赤羽台トンネルは団地内を縦貫するが地下式となり、上空を遊歩道として利用している。記念碑があり行政と団地自治会との長年の協議により作られたことが記載されている。

評価B◆台地の上の団地と、下の駅前を2往復して、地形の段差を実感しました。団地は戦前は『被服廠本部』だったのですね。あの軍服を作っていたのですね。過ぎし戦を思い、本所被服廠を思い、関東大震災を連想しました。

評価B◆下町エリアに、URの建替えられた団地の新たな入居者と東洋大学の学生という新しい人々が流入して、発展してきているように感じます。周辺がどうなっているかわかりませんが、北千住のように若い世代によるリノベーションが生まれていくといいですね。一方、赤羽駅東口の飲み屋街は観光名所のようになっているので、再開発をせずに残してほしいものです。

評価B◆駅前の再開発の街区を抜け、坂道と階段を登ると赤羽台団地のスターハウスに出会えるというヒューマンスケールが良い。とても親しみの持てる街だと感じた。

評価B◆訪問した曜日・時間の影響もありますが、暮らしの活気を感じる街でした。七福神のブロンズ像は不思議な存在ながらも街に馴染む仕上がりでした。

評価B◆赤羽駅西口再開発や赤羽台団地の建替と東洋大学の新設などによって赤羽駅西口は大きく変貌したが、それ以外の市街地などはもっと面白くなるポテンシャルがあると思う。

評価B◆駅前の低い土地の部分と集合住宅のある高台とではっきり分離されていてわかり易い街になっている。あの高低差はエレベーターを使えば何とかなるが利便性を考えると高齢者には少しキツイかも。

評価B◆途中参加になってしまったので、全体説明を聞かなかったことを後悔しています。今回、初めて訪れた町ですが、都心にも近く、駅前もにぎわっているし、住みやすい街という印象でした。

7 ■歴史や記憶を継承しながら新しいまちをつくるときに重視すべきことは何だと思いますか。（自由記入）

●いずれの街も長い間かって形成されたものであり、そこには自然地形や歴史伝統の基盤の上に、人々の生活や地域の産業の営みが積み重ねられて現在の姿がある。その街の形成史と特質をまずは調査究明して、それを十分に踏まえた構想計画とすべきである。機能的性能的に保存が難しい建物や空間を刷新する際には、歴史や記憶の本質を見極めて、その思想を継承することや、象徴となりうるものを保存し、それを尊敬して開発に生かすことが大切であろう。

●歴史的建造物などの実際に歴史や記憶を象徴するものを残すことがわかりやすい方法だが、単に保存するだけでは不十分であり、それを現代に合わせて再生し、うまく活用することが重要だと思う。

●樹木もそうだが、街路、街区・空間構成や建物の保存などそれぞれの局面でコンテクストを継承しながら新しい要素を組み込んでいくこと。保存だけではない、新しい積み重ねが大事。

●人々の記憶に残る構造物や地域のイメージをシンボライズしてデザインに取り入れることで、元々の住民と新たな住民とが地域のイメージを共有することができ、連帯感が生まれてくるのではないかと思います。

●歴史と記憶を呼び覚ます仕掛けが街のそこそこに自然な形でちりばめられているという感じを大切にすることかなと思います。歴史と記憶をリスペクトし新しい形に埋め込むことですかね。

●まちの建物は更新（あるいは消失）するのだから、歴史や記憶を継承するのは、モノとしては、それ以外の環境要素（特徴ある自然や地形、路など）と、加えて元のまちの計画や写真や映像などの記録でしょうか。が、それで歴史や記憶が継承されるのかどうか。赤羽台の新しいまちづくりでは、旧団地に暮らし新たな赤羽台に戻った住民たちが、歴史や記憶の継承という点を含め、どのようにこの新しいまちを評価しているのか気になりました。

●古いものでも良いものは少しでも残していく視点ではないでしょうか。

●残せるものは現代のライフスタイルに合わせて活用しつつ残すこと。スターハウスが行かされるのはよい試み。その土地ならではの地形を感じられるような場所を残すこと。横浜などでやっていますが、かつての地域の様子の画像を記した看板。

●歴史としてどうしても残しておきたいモノを明確にして進めたい。残し方は色々有ると思います。

- 都市計画マスタープランを行政と住民、事業者が参画してつくりあげること。
- 建物自体の保存活用も大事だが、軸線などの構造を踏襲することで歴史的なつながりを感じ取ることができるということは、もっと注目されている。
- その日その日の、今現在をそこで生きる人々にとって、歴史や記憶とは、日常とは無縁だと思います。誰のための記憶なのでしょう？継承とは『お説教』ではないのでしょうか？建築・都市計画・まちづくりに携わる人間の、専門職としての知識・蓄積のためでないのでしょうか？単なる感傷ではないですか？いまそこに住む人に、なにを伝える必要があるのでしょうか？
- 昔の思い出写真のパネル、語り部等、訪れた人々がその場所の歴史、残された意義がわかる説明が必要。建物は外観だけでなく、ミュージアム棟のように再現室内があると良いと実感しました。
- 建物自体を残すことも大切ですが、それらを解説するテキストもきちんと残して分かりやすく開示することが必要だと感じました。
- 住宅は特に設備や快適性、耐震技術の面でも進歩しているから立て替えは必須とは思いますが往々にしてデザインが単調であったり経済効率優先的な単調な町並みになってしまいがっかりということが多いように思います。民間企業だと緑も削られ、思想が感じられないこともあります。過去の設計思想や設計者の気概を知り継承してもらいたいし、せめて過去のデザインをどこかに残してほしいと思います。神宮外苑の計画など見ても長い時間を経て培った物を失うのは残念です。

8 ■今回の企画全体に対する感想など（自由記入）

- 赤羽台団地のスターハウスが保存され、団地ミュージアムができて公開されるので行ってみよう！という企画でしたが、まずは駅西口再開発事業群を一巡したり、当日は団地でボンボンフェスタが開催されたり、内部見学の時間枠を上手く調整したり、地区内に誘致された東洋大学でも学園祭の最中だったりと、とても盛り沢山の街歩きになりました。企画・案内されたFさん、情報提供いただいたIさん、ご説明下さった志岐さん、大変ありがとうございました。私は午前中から行って、フェスタのミニコンサートやキッチンカーを楽しんでから参加し、スターハウスはA I J事前予約、ミュージアム棟はUR当日予約で順当に回れました。東洋大学の校舎建築（隈研吾設計）の外装が、擬木なのにはびっくりです！（ようやく外構の擬木が撲滅されつつあるのに……）最後に特筆すべきは、東口での懇親会です。一次会も美味格安で楽しかったし、OK横丁での二次会也非常にディープでした。というわけで一日中、赤羽の街を満喫することが出来ました！（OR）
- 大変興味深い企画で、参加して良かったです。企画・運営の皆様、ありがとうございました。（OM）
- 今回はまち歩きには参加できませんでしたが、赤羽は何度も訪れており、また職場でミュージアムの見学会をしたので、それらを踏まえて評価しました。東口の飲み屋街なども含めて「赤羽の街」として評価してみるのも面白いかと思います。（KT）
- 私も以前、マンモス団地に住んでいた経験があります。身近な懐かしさと当時の生活を思い出し、良い体験をさせてもらいました。ありがとうございます。（TK）
- 赤羽の再開発、またスターハウス内部の見学機会をいただきありがとうございました。スターハウスをはじめ「よくぞ残した！」と拍手を送りたいです。私が幼少の頃、丘の上に連棟で群をなす赤羽団地を見たとき「これが団地かぁ」「広場があり楽しそうだなぁ」と思ったところでした。スターハウスもその象徴でした。新しい街に変わった様子が体験できとてもよい機会でした。駅前の飲み屋街を含め、昭和の経済成長を支えてきた賑わいとアナログなまちは今後どういう個性をもった街となっていくのか期待しております。（HH）
- 文化財ウィークと団地祭りが重なるという、良い意味で当初の意図とは違ったTEKUTEKUになりました。巧みに構成された団地での人の活動がセットで見れたのはとても良かったとおもいました。（FMa）
- とにかくミュージアム棟の展示が良く出来ていて驚きました。（FMi）
- 駅前の再開発も赤羽台団地の建替えとまちとくらしのミュージアムのいずれも、旧住宅公団、現URの取組をコンパクトにたどる企画で、URの果たしてきた役割と実績が良くわかりました。そして二次会の後に歩いた東口OK横丁との対比も面白かったです。Fさん、企画とご案内ありがとうございました。（FM）
- 普段の企画より移動距離は短いと思いましたが、ミュージアムも含めてじっくり見ることができたと思います。ありがとうございました。（MM）
- (TEKU-TEKU 前の)午前中から参加したので、お昼はフェスティバルの出店キッチンカーでチョコ入りのメロンパン2個と、三益酒店の生ピールで食べました。パンは甘くて温かくて美味しかったです。暖かくほどよい陽気にも恵まれました。自宅からの往復は、行きはひさかたばりに渋谷から赤羽まで、湘南新宿ラインに乗り、田端貨物線を体験しました。帰りは埼京線でした。横浜から赤羽は遠いですね。ふだん行かないところへ出かけるという機会を恵んでくださるのが、TEKU-TEKUのありがたさです。懇親会の、赤羽駅北口の飲食店街の奥行きと深さと味わいには驚き、かつ大満足しました。庶民のパラダイスです。二次会にまで行けず残念でした。この街がおかしな再開発などせず、いつまでも残ってより一層栄えてくれることを切に願います。（赤羽で『再開発』を強行すると、高容積率だけが頼みの、墓石型タワーマンションになってしまうでしょう、そんなのいやです。）（MT）
- 赤羽台におけるURの本気度を感じることができました。ありがとうございました。（MH）

- 中途半端な参加になってしまい、赤羽台全体の teku-teku の評価ができず申し訳ございません。
いくつもUR賃貸住宅をみてきましたが、ヌーヴェル赤羽台は都心のアクセスも良く、まわりの緑も公園のようで、とても心惹かれました。(NR)
 - Fさん、Oさん、ありがとうございました。今回(おそらく)12年ぶりに参加しましたが、かつて高蔵寺ニュータウン団地っ子だった私にはたまらない企画でした。(YJ)
 - 楽しかったです！ありがとうございました。(YT)
 - Fさんの説明が詳細でわかりやすく、まちを観察できました。(YN)
- コーディネーターより■当初はミュージアムと赤羽台団地のみで企画を考えていましたが、歩く距離が短いで、せつくなので西口駅前の再開発もと思い、コース設定しました。その後当日の東京都文化財ウィークに合せた建築学会企画のスターハウス等の見学、団地でのBON*BON FESTA、東洋大学の学園祭などが重なっていることがわかり、登録文化財の見学や団地の賑わいを感じる内容になりました。特にお祭りで団地の公共空間の使われ方を見学できたのは幸運と思いました。多くの方に参加いただき、またとても内容の濃い評価書をいただき、ありがとうございました。まちとくらしのミュージアム、ミュージアム棟の企画・設計段階で関わらせていただいた身として、とても嬉しく思いました。以前一緒に汗をかき当日案内してくれたURのメンバーにも感謝しつつ。(FM)

